

# 本日の講師紹介 (衛生工学衛生管理者/日本心理学会認定心理士)



## 労働安全衛生教育 講師 吉田 峻 Shun Yoshida

私の講習は、「眠くならない」「きれいごとを言わない」そう言っていただくことが多くあります。

それは私が、“ルールをなぞるだけの講習”をしないと決めているからです。

法律や規則は大切です。しかし現場で本当に人を守るのは、その場で何を考え、どう判断するかです。

だから私は、ルールの背景にある意味、現場で起きがちな迷い、「なぜ事故が起きたのか」を隠さず伝えます。

現場で必要なのは、耳に心地よい理想論や、建前だけの正論でもありません。明日から使える現実的な判断力です。

私は安全を、\*\*「工学」と「心理」\*\*の両面から伝えています。

工学は、事故が起きる“しくみ”を見る視点です。どこに危険があり、なぜ事故が起きるのかを考えます。

心理は、人がなぜ危ない選択をしてしまうのか、その“心の動き”を見る視点です。

「これくらいなら大丈夫だろう」その一瞬をあつかいます。

事故は、設備だけが原因で起きるわけではありません。気持ちだけが原因で起きるわけでもありません。

危ないしくみと、甘い判断が重なったときに起きます。だから私は、その両面から安全を伝えています。

## 労働安全衛生法は、血で書かれた法律です。

これは比喻ではありません。過去の現場で失われた命。取り返しのつかない後悔。

守れたはずの誰かの人生。

そうした犠牲の積み重ねの上に、今の労働安全衛生法は存在しています。

すべての条文の裏には、「亡くなった誰か」がいます。

事故が起き、血が流れ、ようやく法律は見直され、書き換えられてきました。

**たくさんの「血が流れなければ、法律は変わらない」——それが、この国の安全の歴史です。**

だからこそ、この法律は単なるルールではありません。命と引き換えに残された、最後の警告なのです。

労働基準法や各種労働安全基準——

これらの基準は、すべて「人を守るため」に作られています。

しかし、忘れてはならないことがあります。法律が守っているのは“最低基準”であって、

命そのものではないという事実です。

法律は、「ここまでは必ずやりなさい」という線を引きます。

ですが、その線の内側にいれば必ず安全だと、誰が言い切れるでしょうか。

法律は過去の犠牲から生まれました。事故が起き、血が流れ、ようやく条文は見直されてきました。

つまり法律とは、過去を整理した記録であって、未来を完全に保証するものではありません。

命を守る本当の基準は、条文の中にはありません。

それは、現場にしか作れない。

事故は、命だけを奪うものではありません。家族の生活や、未来までも奪います。

そして事故の多くは、知識不足や技術不足ではありません。分かっていた。本当は、危ないと知っていた。

それでも——「これくらいなら大丈夫だろう」「いつもやってるし問題なかった」

「今さら止めたら空気が悪くなる」「急いでるから仕方ない」「今日だけだから」

「自分だけは大丈夫」そんな、ほんの一瞬の“言い訳”から始まります。

事故は突然ではありません。**小さな妥協。小さな省略。小さな黙認。**

そしてその積み重ねが、取り返しのつかない現実になります。

命を奪うのは、無知ではない。



多くの場合、

「分かっていたのに選んだ、その判断」です。その積み重ねこそが、  
法律を超えて人の人生を守るか、壊すかを決めます。

法律を守ることは大前提です。

しかし、本当に問われるのは――

「その判断は、人の人生を守れるものだったか」

**命を守る基準は、常に現場にある。**

そしてそれを作れるのは、今ここにいる、あなたです。



## 「安全」は、法律やルールの話ではありません。

私は、安全を「法律を守ること」だけの話として教えていません。

なぜなら、現場で起きる事故の多くは、

知識不足や経験不足ではなく、ほんの一瞬の判断の甘さから起きるからです。

「今回は大丈夫だろう」「急いでいるから仕方ない」「ルール通りだと仕事が進まない」  
――現場には、必ずこうした誘惑があります。「ルールだから守れ」と言うのは簡単です。

しかし、現実の現場はそんなに単純ではありません。私は、その一瞬の判断が原因で、  
誰かの人生が大きく変わってしまう場面を、何度も見てきました。

たとえ法律を完璧に守り、適法性としては **100点満点の対応** だったとしても、

人が死ねば、その仕事は **0点** です。安全とは、ルールを守ったかどうかではなく、

「その判断は、人の人生を守れるものだったか」その一点に尽きるのです。



## 知っている側の責任を、共に。

この講習を修了したあなたは、

もう「知らなかった」では済まされません。

今日からあなたは、**知っている側**の人間です。

事故は、突然起きるものではありません。

それは、「まあいいか」「今回は大丈夫だろう」

――そうした小さな判断の積み重ねの結果です。

だからこそ、その一つひとつの判断に、責任を持てる人が必要になります。

完璧である必要はありません。一人で背負う必要もありません。

今日からは、**知っている側の責任を、私たちと一緒に背負いましょう。**



講師ホームページ→→

